

言語活動の充実を図る国語科指導の実際④

－叙述に即して読み取ったことを基に続き話を書く授業の工夫－

新学習指導要領では、様々な種類の文章と読むことや書くことが求められている。特に、小学校では、創造したことや経験したことなどを基に、詩歌を作ったり、物語や随筆などを書いたりする言語活動が新しく例示されている。

物語を書く学習では、子どもたちが何も手掛かりがない状態から書くことは難しい。そこで、物語教材を活用し、続き話を書いたり、視点を変えて書き換えたりする学習などを取り入れながら進めていくことが大切である。

【実践例】日置市立飯牟礼小学校 松本浩輔教諭の実践を基に作成

1 単元名 人物の生き方や考え方をとらえよう（第5学年）

2 教材名 「わらぐつの中の神様」

3 単元の計画

(1) 単元の目標

- ・ 登場人物の温かい心の通い合いを、叙述に即して情景や場面を想像して、進んで読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・ 登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して想像して読むことができる。
- ・ 文や言葉を根拠にしながら自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりして自分の考えを深めることができる。
- ・ 同じ作者の他作品と比べ読みをしながら、登場人物の人柄、考え方、心情など、読みの課題を解決することができる。【読むこと】
- ・ 読み取ったことを基に、自分の考えをまとめて書くことができる。【書くこと】
- ・ 自分の読みと友達の読みとの共通点や相違点を意識しながら、話したり、聞いたりすることができる。【話すこと・聞くこと】

(2) 単元の計画

過程	主な学習活動	教師の働き掛け
つかむ	1 「人物の生き方や考え方をとらえよう」という単元であることを知り、単元の見通しをもつ。 (1) 全文を読み、心に残ったことや疑問に思ったことを書く。 (2) 初発の感想を交流し、読みのテーマを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「千年の釘にいどむ」で学んだ、文章の正確な読み取り、自分の考えを明確にするための読み、比べ読み、ブックトークの活動について思い出させる。 ・ 場面分けをし、場面ごとに感想を出し合い、不思議だなと思ったことや、おかしいなと思ったこと、題名について考えたことなどを自分が考えた根拠となる文を示して発表させる。 ・ 並行読書として、杉みき子の他の作品を1冊選んで、「わらぐつの中の神様」と比べ読みをさせる。
見通す	2 場面ごとに感想を整理して、学習課題作りをして、学習計画を立てる。 (1) 場面分けをして、登場人物やあらすじを理解する。 (2) 学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面分けをし、感想が集中しているところや疑問に思うことをまとめ、学習課題にしていく。 ・ 挿絵などを利用して、時代や場面について理解が深まるようにさせる。
調べる	3 学習計画に沿って、「わらぐつの中の神様」を読み取る。 (1) マサエとおばあちゃんのわらぐつに対する見方の違いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ マサエとおばあちゃんの考えを比べ、その違いについて話し合わせる。 ・ わらぐつに対する自分の考えを、まとめさせる。 ・ マサエになりきって、三行日記を書かせる。

	(2) おみつさんの人柄と雪げたが欲しいという思いを読み取る。	・ おみつさんが欲しいと思う雪げたについて、挿絵を基に説明させる。
	(3) おみつさんのわらぐつに込めた思いを読み取る。	・ おみつさんは、どのような思いでわらぐつを編んだのかが分かるところに線を引き、なぜ、そのように思ったか書き込ませる。
	(4) なぜ、大工さんはおみつさんの作ったわらぐつを買ったのか考え、わらぐつを通してのおみつさんと大工さんの心の通い合いを読み取る。	・ 仕事に対する取組を比較し、共通する点があることを読み取らせる。 ・ おみつさんと大工さんの心が通い合ったところを考えさせる。
深める	(5) おばあちゃんの話聞いたマサエの心の動きを考えることで、登場人物の心の通い合いを読み取る。	・ おみつさんの誠実な優しさと、大工さんの良いものを見抜く目があったからこそ、二人の思いが通じ合ったことを押さえ、そのことがマサエにも通じたことをとらえさせる。
まとめる	4 心を込めて取り組むことは、互いの心を通わせることにつながるということを基に、わらぐつの中の神様の続き話を書く。 (1) おじいちゃんとマサエの会話を中心に話の続きを書く。 (2) 続き話をグループで交流し、自分の話と友達の話と比較して、自分の考えをまとめる。	・ 帰ってきたおじいちゃんとマサエの会話を中心に、話を進めさせ、心を通わせているものについて考えさせる。 ・ 続き話を読み合うことで、友達の考えに共感させたり、新たな考えに気付かせたりさせる。 ・ 導入段階で行った題名読みにつなげ、「神様」に象徴されているものについて考えさせる。 ・ 並行読書で比べ読みしたことを基に、テーマに対する筆者の立場や共通性を考えさせる。

【言語活動を通して身に付けた「読む力」を活用する】

「場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読む」という既習の「読む力」を活用し、本単元では、登場人物の相互関係や心情を読み取る力、情景描写などの表現に着目して読み味わう力を身に付けた。その力を生かして、続き話を作成することとした。

続き話は、四つの場面を設定し、マサエ↓おじいちゃん↓おじいちゃん↓マサエの順の会話文形式でまとめさせるようにした。

1 続き話をつくらう。

1 おじいちゃん。この雪げたを覚えてる。
今日、おばあちゃんから、昔の話を聞いたんだ。
おじいちゃんのおばあちゃんを思う真心が伝わってきたよ。

2 ああ、そうか。あのころは大工のしゅ業中だったからなあ。
わしと、おばあちゃんの仕事に対する思いが同じだったんだよ。中身が大切だったんだよ。

3 心をこめて作ったものには、神様がいなさる。
おばあちゃんも、わしが買った雪げたを大切にこころをこめて作ったんだよ。

4 おばあちゃん、おじいちゃんのがん持ちをよく分かっていたんだね。
心をこめてやることの大切さがよく分かったよ。
毎日わらぐつをばいどくね。

【作品例】